

第 4 章 目標と取り組みの方向

第 1 節 第 2 次健康いるま 2 1 計画の目標（指標）に対する評価

6 生活習慣病予防

(1) 健康診断受診率の向上

項目	前回値 (平成 24 年度)	目標値 (第 2 次計画)	現状値 (平成 29 年度)	評価
定期的に健康診断を受けている市民の割合	61.1%	64%以上	66.4%	A

●定期的に（1 年に 1 回）健康診断を受けている市民の割合は、目標値よりも 2.4 ポイント増加しました。

(2) メタボリックシンドロームに関する状況

項目		前回値 (平成 24 年度)	目標値 (第 2 次計画)	現状値 (平成 28 年度)	評価
メタボリックシンドローム	該当者	14.3%	10.0%	15.2%	D
	予備群	11.4%	8.8%	12.1%	D
	評価対象者	9,911 人	—	10,863 人	—

内臓脂肪症候群・予備群の状況及び減少率（平成 28 年度特定健康診査法定報告）より

●メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率の目標値は、特定健康診査・特定保健指導を開始した平成 20 年度と比べて 25%減少を目標に設定していますが、いずれも目標値に達成しませんでした。

(3) 生活習慣病であると認知している人の割合

項目	前回値 (平成 24 年度)	目標値 (第 2 次計画)	現状値 (平成 29 年度)	評価
心臓病	12.0%	18%以上	15.7%	B
がん	7.0%	19%以上	9.6%	B
脳卒中	15.4%	24%以上	20.2%	B
歯周病	22.2%	26%以上	29.1%	A

肥満症	43.8%	59%以上	57.1%	B
脂質異常症	36.6%	60%以上	48.6%	B
高血圧症	47.8%	61%以上	62.0%	A
糖尿病	46.7%	68%以上	63.4%	B

●生活習慣と関連している疾病であると認知している人の割合は、歯周病と高血圧症が目標値を達成しています。また、その他の項目でも前回値を上回っています。しかしながら、がん 9.5%、心臓病 15.6%、脳卒中 20.1%と低値であり、認知は依然として低い状況です。

(4) がん検診受診率

項目	前回値 (平成 23 年度)	目標値 (第 2 次計画)	現状値 (平成 28 年度)	評価
胃がん	5.8%	30%	4.6%	—
肺がん	18.4%	30%	9.9%	
大腸がん	12.4%	30%	9.8%	
子宮頸がん	22.9%	30%	14.2%	
乳がん	24.9%	30%	17.2%	

●がん検診の受診率は、すべての項目で減少しています。これは「がん対策推進基本計画」(平成 24 年度閣議決定)に基づき対象者及び受診間隔等に変更があったためです。そのため、前回値との比較は難しい状況となっています。

参考値として別表で受診者数を掲載します。

(別表) がん検診受診者数

項目	平成 23 年度	平成 28 年度
胃がん	3,129	2,981
肺がん	10,554	13,026
大腸がん	7,471	9,160
子宮頸がん	5,509	6,099
乳がん	4,398	5,302

平成 28 年度地域保健・健康増進事業報告より

第 2 節 分野別の目標と取り組み

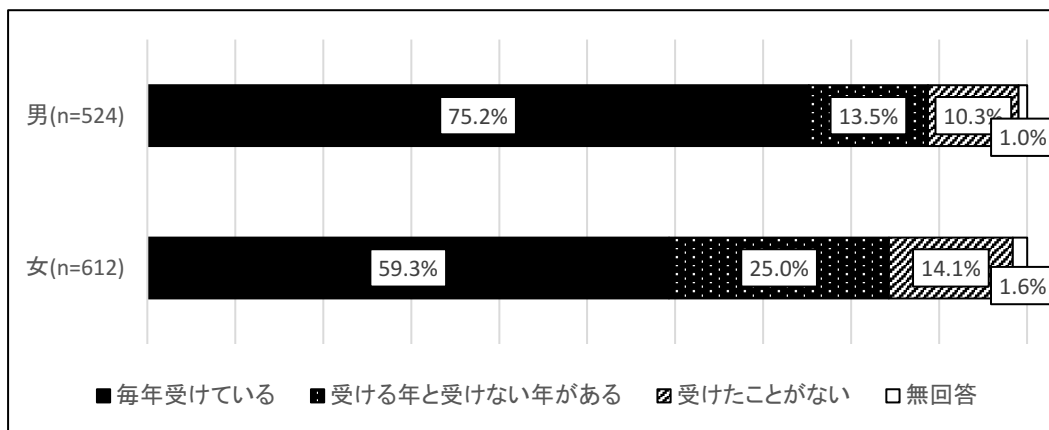
6 生活習慣病予防

(1) 現状と課題

①健康診査の受診状況

市民健康実態調査によると、健康診査の受診状況は「毎年受けている」と答えた人は、前回調査に比べ 5.3 ポイント増加し、66.4%でした。男女別にみると、「受ける年と受けない年がある」「受けたことがない」と答えた人は男性よりも女性の方が多いことが分かりました。（図 1）女性は夫の扶養家族である場合が多く、健診を受ける機会や必要性を認識していない可能性があります。疾病の早期発見やメタボリックシンドロームの予防のために、特に女性への定期的な健康診査の必要性を伝えていくことが大切です。

（図 1）男女別健康診査の受診状況

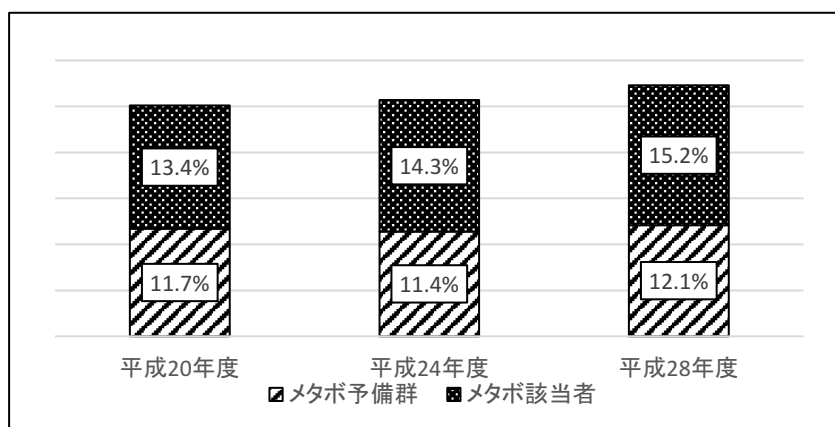


②メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の状況

特定健康診査受診者のメタボリックシンドローム該当者及び予備群は、いずれも増加傾向にあります。（図 2）

今後も引き続き生活習慣病の予防のために、健診の受診率を向上させ、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少に努めていく必要があります。

（図 2）メタボリックシンドローム該当者及び予備群の推移



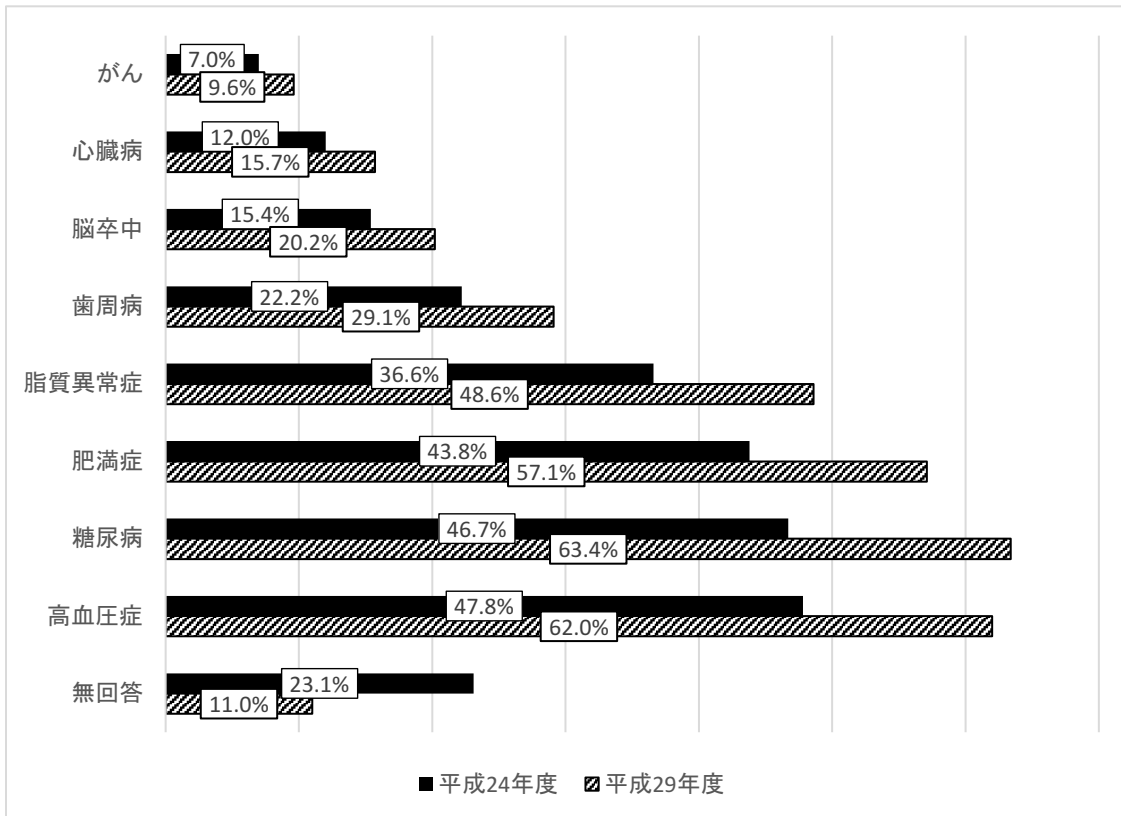
内臓脂肪症候群・予備群の状況及び減少率（平成 28 年度特定健康診査法定報告）より

③生活習慣病・メタボリックシンドロームの認知度の状況

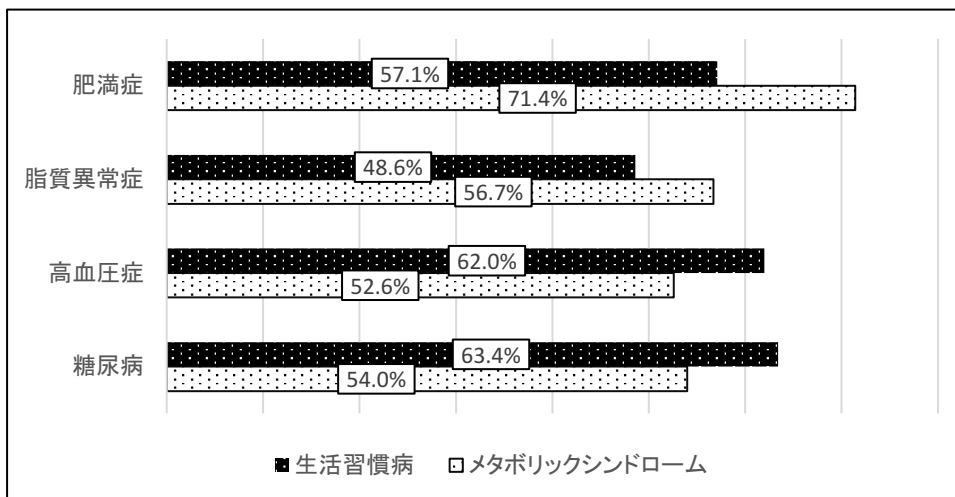
生活習慣病の認知度は、前回よりもすべての項目で増加傾向が見られました。生活習慣病への関心の高さがうかがえます。(図3)

一方でメタボリックシンドロームでは、肥満症が因子であると考えている方が多いことが調査から分かりました。(図4) 今後も引き続き、生活習慣病及びメタボリックシンドロームについての知識の普及啓発を行っていく必要があります。

(図3) 生活習慣病であると認知している人の割合



(図4) 生活習慣病とメタボリックシンドロームの認知度の差



(2) 目標

- ① 健康診査、がん検診の受診率を向上させ、病気の早期発見、メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少をめざす
- ② 生活習慣病及びメタボリックシンドロームの認知度の向上をめざす

(3) 目標値

- ① 定期的に（年 1 回以上）健康診査を受ける人の増加

項目	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 35 年度)	県	国
定期的に健康診査を受ける人の増加 (男女別)	男性：75.2% 女性：59.3%	男性：83% 女性：65%	—	—

◎目標値は現状値の 10%増で設定しました。

- ②がん検診の受診率の向上

項目	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)	県 (平成 28 年度)
胃がん	8.0%	50%	11.2%
肺がん	28.4%	50%	19.9%
大腸がん	19.6%	50%	22.9%
子宮がん	26.4%	50%	19.0%
乳がん	24.5%	50%	20.9%

がん検診結果統一集計結果報告書（平成 28 年度集計結果）より

◎目標値は、埼玉県の目標値と同一としました。

- ③メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少

項目		現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 35 年度)	県 (平成 28 年度)	国 (平成 27 年度)
メタボリックシンドローム	該当者	15.2%	10.0%	17.2%	14.8%
	予備群	12.1%	8.8%	10.9%	11.7%
	評価対象者	10,863 人	—	520,755 人	27,058,105 人

県：内臓脂肪症候群・予備群の状況及び減少率（平成 28 年度特定健康診査法定報告）より
 国：特定健康診査・特定保健指導に関するデータ（厚生労働省ホームページ）より

◎目標値は国「健康日本 21 計画（第 2 次）」、県「健康長寿計画（第 2 次）」に準じて特定保健指導が開始した平成 20 年度からの減少率（25%）で設定しました。

④メタボリックシンドロームの認知度の向上

指標	項目	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 35 年度)
メタボリックシンドロームの認知度	肥満症	71.4%	81%以上
	脂質異常症	56.7%	67%以上
	高血圧症	52.6%	63%以上
	糖尿病	54.0%	64%以上

◎目標値は、現状値+10 ポイントで設定しました。

（４）目標の実現に向けた主な取組み

- 各種健康診査の受診率向上のため、あらゆる機会を通じ、定期的な健康診査の必要性を周知していきます。
- メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少のため、健康教室や個別相談を効果的に実施し、生活習慣の改善や健康管理に役立つ情報を提供します。
- 生活習慣病及びメタボリックシンドロームについて、幅広く市民の方へ周知を図るため、直接市民の生活の場へ出向いて、正しい知識の普及啓発に努めます。